

マデック散布による中晩柑のヘタ落ち及び落果防止

県果樹試験場 常緑果樹部(現、農研センター果樹研究所常緑果樹部)

研究のねらい

収穫前のマデック乳剤散布により、甘夏やネーブルなど、中晩柑の貯蔵中のヘタ落ちを防止して貯蔵性や品質の向上を図るとともに、河内晩柑に対しては後期生理落果を防止して生産の安定を図る。

研究の成果

1. ヘタ落ち防止効果

- (1) マデック乳剤を甘夏、ネーブルの収穫20日～30日前に3,000倍～4,000倍の濃度で樹全体に散布することにより、貯蔵中のヘタ落ちを防止でき、腐敗や減量率も少なくなる。
- (2) 貯蔵形態では、裸、ポリ個装、新聞包装のいずれも効果はあるが、特に裸貯蔵での効果が大きい。
- (3) 効果を十分発揮させるには晴天日を選んで散布する。貯蔵庫の温湿度条件を良くし、果実の取扱いをていねいにするなどの配慮が必要である。

2. 落果防止効果

- (1) 河内晩柑に対しては、11月～1月に3,000倍～4,000倍の濃度で樹全体にムラなく散布することにより、十分落果防止効果が期待できる。
- (2) しかし、11月散布の場合、気温の上昇する3月～4月になると効果低下の傾向がみられるので、高濃度散布とし、早目の収穫が必要となる。
- (3) また、1月散布の場合、効果は長続きするが、12月の落果防止には役立たない。樹体の状況を見ながら、時期や濃度を決定する必要がある。

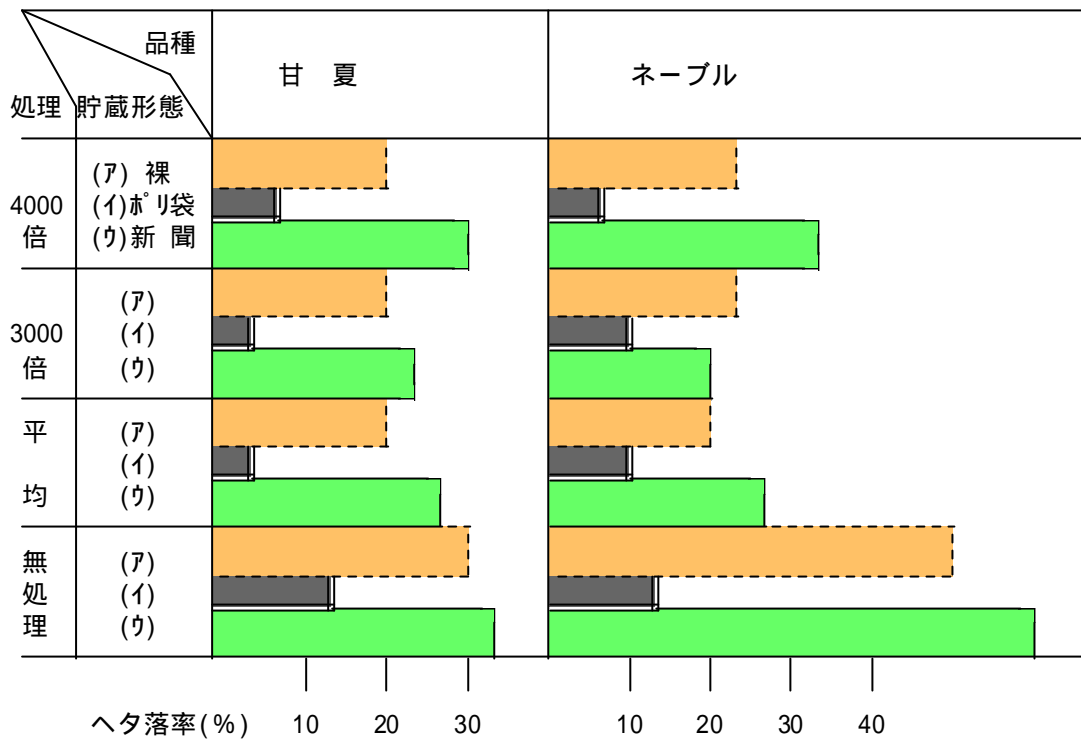


図1 マデック散布によるヘタ落ち防止効果

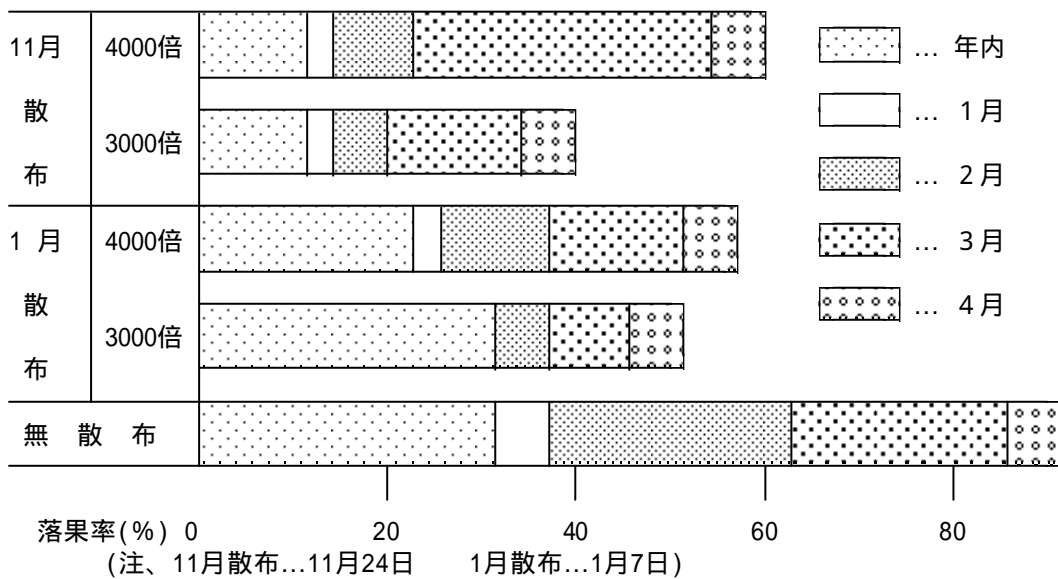


図2 マデック散布による河内晩柑の落果防止効果